双葉西小だより

令和６年　６月１８日　文責　校長

　新年度の慌ただしさが落ち着く頃、気分がすぐれなかったり、やる気が出なかったり、これを「６月病」と言います。これを防ぐためには、１生活リズムを整える、２適度な運動をする、３意識的に休息をとる、これらのことが大事なのだそうです。張り詰めた生活をしてきたので休養を取る時期かもしれません。皆様、健康にはくれぐれも御留意を！

シャトルラン終了

　「体力測定」の１つとして行う「シャトルラン」、２０Ｍを往復し持久力を測定するものです。途中、測定距離に誤りがあり再測定を行った学年もありました。学校の不手際により児童、保護者に御迷惑をおかけしたことを深くお詫びいたします。各学年とも多くの保護者に測定を補助していただいたことにより、無事終わることができました。ありがとうございます。

あいさつ運動

　児童会活動として「あいさつ運動」が行われています。コロナ禍はマスクをして、大きな声を出さない指導が行われていました。その名残なのか、あいさつは少し元気がないように感じます。「あいさつ運動」を機に、気持ちの良いあいさつが交わされると良いですね。家庭での御協力もお願いします。

水泳シーズン到来

　７月の暑さとも言われるこの頃。まだまだ暑くなりそうですね。その一方で児童が楽しみにしている水泳が始まりました。気温が３０℃近いときはプールに入ると生き返ります。この夏、安全に気をつけながら、十分に水遊びや水泳を楽しんでほしいと思います。

木スポ開始

　学校では教室で「朝の会」が始まる前を「業前」と言っています。木曜日の業前はスポーツに親しみます。これを略して「木スポ」と呼んでいます。

　前回は並び方の練習でしたので、実質今回が初めての「木スポ」になります。全校で「ラジオ体操」を行いました。

挑戦すること・継続すること

４月に全校児童に向けて「どりょくのつぼ」の話をしました。また、テーマも「挑戦」を掲げています。小学生の今の時期は様々な力が伸びていきます。１つのことを極めるのも立派なことですがまだまだ絞らず、様々な体験をし、知識を得、周りと関わり、見聞を広めていくと、様々な可能性が広がっていくのではないかと考えております。

私の考えを代弁してくれるような言葉を見つけましたので、掲載いたします。

双葉西小学校の校長室に入ると、壁に掛けられた額にこんな言葉が書いてあります。

どなたの言葉なのか調べてみると、大正・昭和時代に活躍した、社会教育学者、後藤静香さんの作でした。

本気
本気ですれば
大抵のことができる
本気ですれば
何でもおもしろい
本気でしていると
誰かがたすけてくれる

つまづいたって
いいじゃ
ないか
にんげんだ
もの

これは詩人である相田みつをさんの作です。誰しもそうですが、失敗を目指して取り組むということはないはずです。けれど、結果は成功体験ばかりではありません。意に反してつまづいたり、失敗したりすることがありますよ。皆、この反省を生かしながら、今の自分があるのだと思います。

元テニスプレーヤーである松岡修造さんの言葉です。私も学生時代はテニスを嗜んでおりました。ほぼ同年代の松岡さんが世界で戦う姿を頼もしく思い、あこがれ、応援していたものです。先が見えないと不安になりあきらめがちになります。でも、もう少しがんばってみる。「継続の力は大なり」って、この言葉も思い出します。

百回叩くと
壊れる壁が
あったとする。
でもみんな
何回叩けば壊れるか
わからないから、
九十回まで来ていても
途中であきらめてしまう。

地域の皆様へ

児童の様子は双葉西小学校ホームページにブログとして掲載しております。御覧いただけましたら幸いです。

↓

ＵＲＬ　https://www.city-kai.ed.jp/fnsho/